

資産運用レポート：予備リスト

はじめに

銘柄分析には時間がかかります。定量面だけでなく、定性面まで踏み込んだ分析を行う長期投資ではおさらです。

目についた企業を片っ端から分析していると、とてもじゃないけど追いつきません。本当に切りがないのです。

最近ではバリュー投資の達人である光通信が大株主となっている銘柄を重点的に分析することで、なるべく手間を減らすようにしているものの、それでさえ300銘柄ほどあります。

この状況を打破する妙案はないものか？

思案した挙句、たどり着いたのが予備リストの活用です。予備リストとは、何らかの選択基準を用いて銘柄を絞り込んだ一覧表です。

予備リストから詳細な分析を行い、銘柄を絞り込んだ最終リストを作成すれば、相当に作業量を減らすことができます。

今回の運用レポートでは、5つの選択基準を用いた予備リストを作成してみました。選択基準は下記のとおりです。

- (1) 光通信が大株主、ROE 10%以上：144銘柄
- (2) 光通信が大株主、ROE 15%以上：74銘柄
- (3) 光通信が大株主、ROE 20%以上：39銘柄
- (4) 光通信が大株主、ROE 10%以上、配当利回り3%以上：69銘柄
- (5) 光通信が大株主、ROE 10%以上、配当利回り4%以上：24銘柄

それでは、次ページより実際の予備リストを見ていきましょう。